



日本遺産

北総四都市江戸紀行
佐原「江戸優り」
フォーラム

2019年

3月9日(土)

13:00 ~ (入場無料)

会場 与倉屋大土蔵

香取市佐原イ 1730

- 13:00 開会挨拶
13:15 趣旨説明
法政大学江戸東京研究センター (EToS) 紹介
13:30 基調講演
「江戸はネットワーク」再論
田中 優子氏: 法政大学総長
14:40 リレー講義
「江戸優り」と伊能忠敬の地域経営
酒井 右二氏: 地元郷土史家 (伊能忠敬翁顕彰会)
小笠原 永隆氏: 帝京大学准教授 (学芸員)
15:25 トーク・セッション
「江戸優り」の示唆とまちの未来
コーディネーター
小島 聡氏: 法政大学人間環境学部教授
パネリスト
酒井 右二氏
福井 恒明氏: 法政大学エコ地域デザイン研究センター長
コメンテーター
田中 優子氏
16:05 閉会



主催: 北総四都市江戸紀行活用協議会

共催: 法政大学江戸東京研究センター 特定非営利活動法人まちおこし佐原の大祭振興協会 香取市国際交流協会

特定非営利活動法人小野川と佐原の町並みを考える会 伊能忠敬翁顕彰会 特定非営利活動法人佐原アカデミア

結いの会 (株)NIPPONIA SAWARA 佐原商店会連合会 佐原おかみさん会

お問い合わせ先: 香取市教育委員会生涯学習課 ☎ 0478-50-1224 佐原商工会議所 ☎ 0478-54-2244

日本遺産・北総四都市江戸紀行 佐原『江戸優り』フォーラム

【フォーラム開催の趣旨】

2016（平成28）年4月25日に佐原は百万都市江戸を支えた町並みとして、他の北総の3都市の城下町佐倉・成田山の門前町成田、漁港・港町、そして儀巡りの観光客で賑わった銚子と共に「日本遺産」に認定されました。北総地域は、百万都市江戸に隣接し、関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川東遷により発達した水運と江戸に続く街道を利用して、江戸へ東国の物産を供給し、江戸の暮らしや経済を支えました。こうした中で、佐原は江戸との交流の中で江戸文化を取り入れ育んできました。多くの人々が行き交い物資の集積地として繁盛した利根川水運の拠点佐原河岸、佐原はまた香取神宮への参道の起点の地となっています。「お江戸見たけりゃ 佐原にござれ 佐原本町江戸優り」と唄われたように、江戸との交流の中で「江戸優り」という独自の文化を構築し、町衆のまちとして、特に大祭を媒介とした深い絆の下でまちづくりを展開してきました。

また、江戸時代から町に根付く「自治の精神」や天災に見舞われた際に私財で民を救済した伊能忠敬（2018年は没後200年）の精神を受け継ぎ、今も住民が主体的にまちづくりを展開し、シビックプライドを育むことで持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

そこで、21世紀のいま、江戸を感じる北総の町並みと文化を現代まで継承してきた水都そして商都である佐原の都市史、江戸・東京との中心・周縁の都市関係史を、あらためてシビックプライドの象徴的表現である「江戸優り」から読み解き、合わせて未来志向で、佐原の持続可能性を展望します。

【出演者プロフィール】



田中 優子 氏

法政大学社会学部教授、国際日本学インスティテュート（大学院）教授。2012年度より社会学部長。2014年度より法政大学総長。専門は日本近世文化・アジア比較文化。研究領域は江戸時代の文学、美術、生活文化。『江戸の想像力』で芸術選奨文部大臣新人賞、『江戸百夢』で芸術選奨文部科学大臣賞・サントリー学芸賞。その他著書多数。2005年度紫綬褒章。江戸時代の価値観、視点、持続可能社会のシステムから、現代の問題に言及することも多い。



福井 恒明 氏

法政大学デザイン工学部教授、江戸東京研究センター兼担研究員、エコ地域デザイン研究センター長。専門は都市景観・景観まちづくり・社会基盤のデザイン。編著書に「景観デザイン規範事例集」「コンパクト建築設計資料集 [都市再生]」「水都学Ⅴ」など。千葉県流山市・東京都杉並区・千代田区などの景観行政、佐渡・四万十・柴又の文化的景観に関わる。街路イメージ形成研究の対象のひとつとして佐原の街並みを取り扱った。



小島 聡 氏

法政大学人間環境学部教授、前人間環境学部長、エコ地域デザイン研究センター兼担研究員。専門は行政学・地方自治。「地域の持続可能性」概念に基づく自治体政策やソーシャル・イノベーションが研究テーマ。著書に『フィールドから考える地域環境』、『分権時代の地方自治』など。超高層マンションが林立する川崎市武蔵小杉地域のコミュニティ問題の座長、長野県飯山市におけるコミュニティ・カレッジの学長などの取り組みのほか、佐原にも、学部の現地実習科目を通して5年前からコミットしている。



酒井 右二 氏

1950年、千葉県香取市佐原に生まれる。1978年、早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。千葉県の公立高等学校、千葉県史料研究財団に在職し、2010年佐原高校で退職。この間、佐原や千葉県を中心とした近世地域史の研究を継続。早稲田大学第二文学部非常勤講師、立教大学文学部兼任講師、国立歴史民俗博物館の共同研究員、千葉県史編さん近世史部会専門員などを歴任し、千葉県史のほか県内の自治体史の編纂にも当たっている。



小笠原 永隆 氏

1993年4月千葉県教育庁入庁、千葉県文化財センター、千葉県商工労働部観光コンベンション課、観光資源開発室、総合企画部地域づくり推進課、千葉県立現代産業科学館、県立房総の村、千葉県文書館を経て、2017年4月～帝京大学経済学部観光経営学科准教授現在に至る。専門分野は、観光資源開発論、博物館学、日本考古学、産業考古学など。研究テーマは、歴史文化資源の保全と観光活用、埋蔵文化財の保全と活用など。